

ものにおいて養成されている実情である。なおこの外に、幼稚園教員の需要に應ずるために、公私立合わせて三七の臨時教員養成所が文部大臣の指定を受けて専ら幼稚園教員の養成を行っている。この養成所は、従来は仮免許状取得を目的とするものであったが、昨年の教育職員免許法の改正により、近い将来において、二年の課程として、二級免許状取得を目的とするものに切替えられることになっている。最近、幼稚園の保育要領についても成案が得られるような模様であり、幼稚園の教員養成の内容についても研究が進められている。

幼稚園の教員構成はまだ不十分な状態であり、これを是正することは、単に有資格教員を養成することだけは、解決できないことは、前述の通りであるが、幼稚園教育振興の為には、今後よりよい教員の養成という方向で更に努力することが必要であろう。

(文部省教職員養成課長)

昭和三十年全国 国立大学教員養成 学部教官研究集会

(幼稚園の部)について

(津守 真記)

昭和三十年度の幼稚園教育養成に関係ある国立大学の教官の集会は、去る十一月十四日より十七日まで四日間、岡山大学において開催され、関係大学三十六校より教官四十六名が出席して、幼稚園教育の養成の具体的な問題について活潑な討議が行なわれた。昨年の大分の集会につづいて、教育内容の問題がその主たる議題であった。全国の各大学によって、保育内容としてどのような内容のものを何単位あてているかということは、それぞれの大学によってかなり事情が異なるのであるが、共通の問題として、教職専門科目としての保育内容をどのように考えるべきか、またその具体的な内容としてはどのようなものを盛るべきかについて、一応の諒解に達したのであった。主催校の努力によってこの問題に関する各大学の実情などの詳細な資料が予め配布されたことは有益であった。分科会は夜までつづけられ、熱心な討議が交された。

その結果、保育内容の総論を含めた幼児教育原理の教授内容の要領について参考案が作成され、検討が行なわれた。幼児心理と幼児教育原理がそれぞれ二単位備えられる前程のもとに、次に保育内容の研究各論(健康、社会、自然、言語、音楽リズム、絵画製作)について、教授内容の参考案が作成されたが、各論については十分な検討までには至らなかった。これらの具体的な案の詳細については、文部省より近く刊行される幼稚園教育教員養成学部教官研究集会集録に見ることができる。